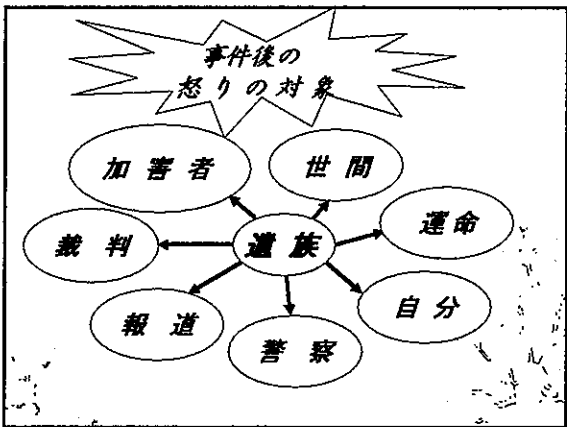


ある日突然最愛の娘を奪われて
 ～犯罪がその後にもたらすもの～
 2010.5.20
 秋田看護福祉大学
 山内久子

1995年(平成7年) という年

- ・1995年1月17日 阪神淡路大震災
 死亡者：6434人 行方不明者：3人
 負傷者：43792人 避難人数：30万人以上
 被害総額：約10兆円規模
- ・1995年3月20日 地下鉄サリン事件(戦後最大級のテロ事件)
 死亡者：13人 負傷者：約6300人
- ・1995年10月2日 山内陵子(当時大学3年・21歳)
 殺害される



犯罪被害者・遺族は二度殺される

被害者は亡くなった後にも多くの被害に遭い、遺族も不安や悩みを抱くことが多い

- ・裁判等による精神的・経済的・時間的負担
- ・プライバシーの侵害
- ・マスコミの取材・報道
- ・周囲の人々からの誤解
- ・入信への勧誘
- ・出所後の再犯に対する不安 など

命の重さ・尊さ

人の尊い命を奪うことは
 遺された家族の大切な人生
 まで奪うことに等しい

大切な人を喪った遺族に
 必要なもの (3つのT)

時 間 : Time
 涙 : Tears
 語 り : Talk

涙

人生の緩衝材となる
感情と共に出る涙の特徴

浄化作用がある
感情を安定させる
作用がある

コロンビア大学・ミネソタ大学

被害者遺族へのかかわり

- ❖ 一人ひとりに真剣にかかわり、誠意を表す
- ❖ 辛さや悲しみの感情が強い時には、じっくり話しに耳を傾け、時には十分泣かせる
- ❖ 遺族の示す感情や言葉を批判することなく丸ごと受け止める
- ❖ 他の事件や被害者と比較しない
- ❖ 事件により夢や希望を失い、思い出より残っていない人もいることを知る

被害者遺族へのかかわり

- ☆ 家族を喪って（特に事件・事故・自殺等）触れて欲しくない時や場がある
- ☆ 日常的な会話、時には非常につらい会話になることがある
（家族についての会話等）
- ☆ 本当に心が癒されるまでには相当な時間や期間が必要である

被害者遺族へのかかわり

- ☆ 遺族が思いをありのままに表現できる環境づくりに努める
- ☆ 遺族が自分の弱さを他人にさらすことの辛さを知る
- ☆ 遺族が語る話の流れにそう
- ☆ よいかかわりにより遺族は自分自身で方向性を見出すことが出来る

人は非日常的な出来事に遭遇したとき、他人の心無い言葉で心を傷つけられることがある。しかし癒されたり、勇気づけられることもある。

遺族として傷ついた言葉

- * もう一人、娘さんがいるから良かったね
- * 天国にお嫁さんにやったと思うといいね
- * 親より早く亡くなる子は親不孝だと言うよね
- * どうして二人の仲を許してあげなかったの
- * いい娘を持つとこういうことになるんだよ
- * 名前が良くなかったのでは・・・
- * (母親に対して) 仕事を辞めるのかと思った
- * 都会に若い娘を出すと怖い目にあうんだよ
- * あんまり泣いていると成仏しないよ

遺族を支えた言葉

裁判で明らかになったこと

- ・被害者には全く落ち度がない
- ・加害者の自己中心的な犯行
- ・被害者と加害者は一度も言葉を交わしたことがない
- ・「私はあなたに何もしていないのに」
という娘の最後の言葉

遺族としてうれしかったこと

- ・亡くなった人の命日や誕生日を覚えてもらえていた時
- ・タイミング良く遺族の心のうちを聞いてもらえた時
- ・亡くなった人の思い出話をしてもらえた時
- ・遺族に対し、あたたかい気遣いを示してもらえた時

遺族の気持ちは生きている

遺族の気持ちは時と共に成長し
少しずつ変化していく
以前は娘の死により夢も希望も
全て失ったと思っていた
しかし、現在は娘の死から多くの
得るものがあることを知った
家族の強い絆
犯罪に対する強い認識と命の尊さ
犯罪被害者遺族の気持ちの理解
体験を話す機会



ご静聴ありがとうございました

